

『目撃・いじめ』

▼ 学習の目的

- (1) 「いじめが間違っている」と万人がわかっているのに「いじめがなくなるのはなぜか？」について考える。
- (2) 自分の弱さを受け入れる勇気を育む。
- (3) 粘り強く考え、あきらめない精神力を養う。
- (4) 「正しい知識」を行動化する態度を促す。
- (5) 傍観的な態度から社会参加する方向性を明確にする。

▼ ワークショップ

全員にシートを配布し、促進役が読み上げる

【小学校高学年になったつもりで参加してください】

学校の帰り道、五～六人の同級生（知っている子？知らない子？）が、一人の同級生（知っている子？知らない子？）をいじめているところにてあいました。棒でつついていたり、悪口を言ったり、からかっていたり、など自由に考えてください。いじめをとめたいのは山々です。しかし、とめにはいると、いじめが自分にまわってくるような気がします。だまって通りすぎると、自分の心に傷がつきます。今、ここで、あなたは、どういうことならできそうに思いますか？

「いじめをどうにかとめたい、なんとかしたい」と考え、「わたしには、どうにかできる智慧と力をかならず持っている」と信じてください。あきらめずに、ねばり強く考えつづけてください。

「いじめをやめろ！」と飛び込める事が出来ることを100点満点とします。だまって通りすぎるのは0点です。0点をとらなければかまいません。数多くのできそうなことを考えてください。

（間違っても、いじめ側には、まわらないように……。これはマイナス点）

★ いじめ解決案（参考例）

- 一人でも「いじめはダメ！」と止めにはいる。
- 「いじめるんだったらボク（わたし）をいじめろ！」と割ってはいる。
- 大人を捜して、とめてもらう。
- 犬をけしかける。
- 現場にたたずんで「いじめはダメ！！」と念じる。

.....
などなど